卒業論文

景気と内定率の相関関係について

慶應義塾大学と大学全体の比較と景気動向指数

2017 年 12 月 29 日

慶應義塾大学経済学部 4 年

長倉大輔研究会

須藤大輝

第１章　はじめに

１－１　問題提起

2017 年度現在、就職活動において所謂「売り手市場」と呼ばれる「好景気下における新卒採用の活発化」が発生しているといわれており、その求人倍率は 1.78 倍(リクルートワークス研究所,2017）という高倍率となっている。その一方で 2008 年に起こったリーマン・ショック下では、景気の低迷が発生したにもかかわらず新卒採用においてその求人倍率は 2.14 倍(リクルートワークス研究所,2017）と現在の倍率よりも高いという結果になっている。

このように、景気に連動して求人倍率は増加しているということでは必ずしもなく、景気が真に内定率との相関関係があると言えるのかは疑問である。

この疑問に対して所謂学歴や景気動向指数が関係しているのではないかと推測したため、これについて単回帰分析を用いた分析を行おうと思う。

１－２　先行研究

本論文では先行研究として『景気変動に対する学生の意思決定について　―川口ゼミのデータによる実証分析―』（尾崎,2011）を参考に研究を行っている。当論文では景気変動に対して学生はどのような進路を選択するのかという内容について考察がなされており、その中でも留年行動、院進学行動、公務員志願の三つについて考え、単回帰による分析を行っている。またその分析を行う上での重要なファクターとして、文系か理系か、そして短期的に会社を辞めてしまう恐れのある女性は省き、勤続年数が長期的パターンとなる男性にフォーカスを置いて考察をおこなっている。

この研究の仮説は「留年率、院進学率、公務員志願率と大卒求人倍率については負の相関関係がある」とされており、その結果として理系男子就職率を除きそれらは負の影響が出ており、その中でも理系文系共に男子院進学志望率と公務員志願率は大卒求人倍率について負の相関関係が優位であるという結果になった。

この論文では主に学生の意思決定について述べているが当論文ではあくまでも景気と内定率の相関関係に関して分析していこうと思う。

１－３　仮説

景気動向指数における先行指数、一致指数、遅行指数という三つの概念があり、それぞれ先行指数は景気に対して先行して変化が発生し、一致指数は景気と一致、遅行指数は景気に対して遅れて変化が発生する指数といわれており、新規求人数（除学卒）は先行指数、有効求人倍率（除学卒）は一致指数、常用雇用指数（調査産業計、前年同比）に関しては遅行指数に含まれている。

現在の日本における採用制度である「新規学卒一括採用」の形からも基本的に学卒は長期

採用が前提として考えられていることから、景気と内定率の相関関係は正の相関関係が見られるが、景気に対して遅行的に相関関係が現れると推測される。

また学歴に関してだが、企業は優秀な人材を採用したいと思っているため、景気が悪くなったとしても最終的に高学歴の人材は内定を獲得することが出来るのではないかと推測をした。実際に慶應義塾大学の学生の内定率は 65%～72%を推移している一方で、大学全体となると 55%～70%と広い範囲で内定率が変化しており、景気の影響を受けやすいように受け取ることが出来る。

以上のことから、慶應義塾大学の内定率は景気に対して遅行的に変動していき、また学歴が良いほどその変動を受けづらく、内定率も他大学と比較して高い水準を維持するのではないかと仮説を立てた。

1－4　定義

景気というものは景気動向指数における CI や日銀短観、また GDP など様々なはかりで示すことが出来るが、当論文では先行、一致、遅行に関して比較分析を進めるため、景気に対してそれぞれ先行的、遅行的、また一致して変化する様々な指数を傾向別に統合することによって経済全体に対してどのような影響を与えているのか分析する指標である景気動向指数を用いることとする。

また、文献により定義が異なってしまっているため、内定率に関する定義を

$$内定率=\frac{内定者数}{卒業予定者数}$$

とする。

それに加え、当論文で用いるデータは大学生の卒業月である 3 月以前から最も近いデータを用いることとする。

第 2 章　計量分析

以下のモデルを推定した

$$job_i = \alpha + \beta economy_i + \varepsilon_i$$

ここで

job_i:i 年の内定率

$economy_i$:i 年の景気動向指数

である。

各変数の説明、引用先は以下のようである。

・内定率

慶應義塾大学の内定率は「慶應義塾大学　就職・進路データ　業種別就職及び進学等状況」（平成 20 年～平成 29 年）を参照した

大学全体の内定率は厚生労働省「大学等卒業予定者の就職内定状況調査（2 月 1 日現在）について」（平成 20 年～平成 29 年）を参照した。

・景気動向指数

内閣府「統計表一覧:景気動向指数 結果」（平成 20 年～平成 29 年）を参照した。

推定結果は以下のようになった。

慶應義塾大学の内定率と景気先行指数

	係数	標準誤差	t 値	信頼性
定数項	0.6405212	0.0771644	8.301	***
景気	0.0005486	0.0007734	0.709	

慶應義塾大学の内定率と景気一致指数

	係数	標準誤差	t 値	信頼性
定数項	0.5789737	0.0708347	8.174	***
景気	0.0011168	0.0006789	1.645	

慶應義塾大学の内定率と景気遅行指数

	係数	標準誤差	t 値	信頼性
定数項	0.4795159	0.0691294	6.936	***
景気	0.0022878	0.0007319	3.126	*

大学全体の内定率と景気先行指数

	係数	標準誤差	t 値	信頼性
定数項	0.5713811	0.1668847	3.424	**
景気	0.0005701	0.0016727	0.341	

大学全体の内定率と景気一致指数

	係数	標準誤差	t 値	信頼性
定数項	0.412616	0.155338	2.656	*
景気	0.002073	0.001489	1.393	

大学全体の内定率と景気遅行指数

	係数	標準誤差	t 値	信頼性
定数項	0.182415	0.149787	1.218	
景気	0.004731	0.001586	2.983	*

第 3 章　考察・結論

3－1　考察

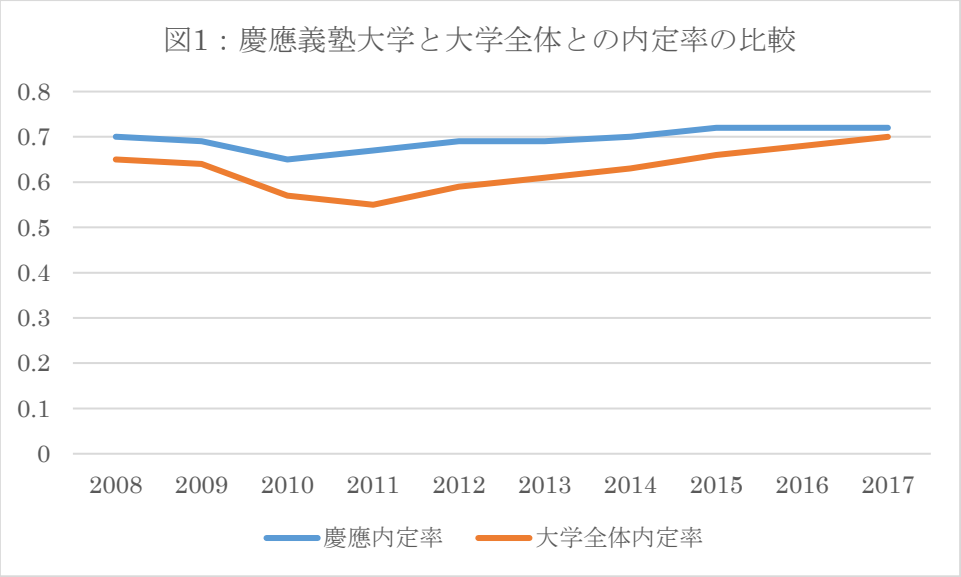
第 2 章の分析結果からわかることを、定数項について、景気動向指数について、そして慶應義塾大学と大学全体との比較について順に説明していきたいと思う。

まずは定数項に関してであるが、慶應義塾大学において定数項は t 値が高く、信頼性の高い結果となっている。その一方で大学全体では慶應義塾大学と比べて全体的に定数項の t 値が低く、信頼性も低い結果となってしまっている。

つまり、慶應義塾大学では景気に左右されずに一定の内定率があるのに対して、大学全体ではその他の要因で内定率が大きく変動してしまうということが推測される。

次に景気動向指数に関してである。慶應義塾大学、大学全体共に景気動向指数は遅行のみ景気に対しての信頼性が高まる結果となっており、遅行のみ景気と内定率の相関関係が強くなっているということがわかる。このことから新卒採用人数は常用雇用指数と同じように景気に対して遅行していることがわかる。

最後に慶應義塾大学と大学全体との比較である。まずは以下の図 1 を見ていただきたい。



この図からもわかるように慶應義塾大学は大学全体と比較して常に高い就職率を維持していることが分かる。またこの表からは先ほどの分析結果から導き出された、慶應義塾大学が他大学と比較して定数項が高く、そのため常に内定率において高い就職率を誇っていることや、またリーマン・ショックが起こった 2008 年に対して遅行的に発生している 2009 年以降の内定率低下とその回復の推移からも、定数項の影響が弱いため大学全体の内定率が慶應義塾大学の内定率と比較して景気に左右されやすいことが分かる。

3－2　結論

これまでのことから、仮説で示したように内定率は景気に対して遅行的に変動していくが慶應義塾大学は他大学と比較して景気の変動を受けづらく、内定率も高い水準を維持することができると分析することができた。

3－3　終わりに

当論文では主に慶應義塾大学にフォーカスを当て、景気と内定率に関する相関関係を単回帰分析によって分析を行ったが、実際の就職活動ではその学生の志望する業種や企業の求めている人材、その業界の将来性など、景気以外の様々な要因が考えられた上で採用が行われている。これらの景気以外のファクターについては分析の材料として扱いづらいデータが多かったため用いることが出来なかったが景気以外の様々な条件についても分析を行った研究が発表されることを願っている。

【参考文献】

1. リクルートワークス研究所（2017）「第 34 回 ワークス大卒求人倍率調査(2018 年卒)」
   www.works-i.com/pdf/170426_kyuujin.pdf
   2018 年 2 月 27 日アクセス
2. 尾崎拓哉（2011）「景気変動に対する学生の意思決定について―川口ゼミのデータによる実証分析―」
   http://www.econ.hit-u.ac.jp/~kawaguch/class/seminar_undergrad/ozaki-thesis.pdf
   2017 年 12 月 29 日アクセス
3. 慶應義塾大学三田キャンパス学生部就職・進路支援担当（2008～2017）「慶應義塾大学就職・進路データ　業種別就職及び進学等状況」
   http://www.gakuji.keio.ac.jp/life/shinro/3946mc0000003d8t.html
   2017 年 12 月 29 日アクセス
4. 厚生労働省（2008～2017）「大学等卒業予定者の就職内定状況調査（2 月 1 日現在)について」
   http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/bukyoku/syokuan.html
   2017 年 12 月 29 日アクセス
5. 内閣府（2008～2017）「統計表一覧:景気動向指数　結果」
   http://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/di/di.html
   http://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/di/di_past2.html
   http://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/di/di_past.html
   2017 年 12 月 29 日アクセス